

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2020年10月30日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第35号

接しなくても心が通う交流で縁をつなげたい

エルファは今年、設立20周年を迎えた。5月には劇場—Theatre E9 KYOTOで劇団石(トル)きむきがんさんの「在日バイタルチェック」の上演やネットワークサロンでの祝賀会を開催する予定だった。協議を重ね1年後(2021年5月)の開催を決断した時は、まさかこれほどまでに新型コロナウイルスによる影響が長引くとは…十分な時間をおいて来年に延期したつもりだが、それもどうなる事やら予測不能である。エルファでは毎年800人を超える人との交流がある。小学生からシニア層まで人権問題や多文化共生実現のための学びの場として全国各地、海外からも来訪者が絶えない。ハラボジ・ハルモニたちとふれあううちに表情がほぐれ、固くふさいでいた心のふたが開いたかのように語りはじめる研修生と利用者のやりとりは交流の醍醐味である。ふれあいの素晴らしさだ。「なんも知らんわたしらでも何かの足しになっているんやなあ」と、利用者は来訪者の訪れを生きがいに換えていた。しかし、コロナはこんな貴重な機会を奪った。敬老の日、毎年来てくれる京都朝鮮初級学校の園児らが今年に行けないからと、全校生で作った万年長寿を願うポスターを届けてくれた。それを見て感激のあまり涙する利用者の姿に、人と人が切り離されているような「新しい生活様式」が、高齢者にどれだけ大きなダメージを与えているのかを再認識した。体は近づけなくても心の距離を縮める交流、接しなくても心が通う交流を駆使していきたい。今を生きる利用者との交流を切らさないために、ICTを活用し今できる縁をつなげていきたい。コロナに負けてたまるか!諦めるものか!コロナ禍で、いかにコミュニケーションを取っていくのか、来年の20周年をどう迎えるのか、ハラボジ、ハルモニたちの知恵を借りながら職員たちと一緒に考えていきたい。

南珣賢(なんすんひょんNPO法人エルファ事務局長)



「東九条の語り部たち」朴実さん青年期編

中学3年生で、就職試験を受けることにして、片っ端から応募して。姉のこと（就職差別）があったから本名で。そんな大きくない会社。でも、けっこうワコールやら大きいわね。ワコール、シンポ工業、石田衝器って量りの会社。全部だめやったけど。お菓子やさんも受けたな。ありとあらゆる職種。ただし、条件として、定時制高校行けるとこっていうことで、受けたんですよ。その中で、関西二井っていう九条病院の南側にあったコンデンサーの会社。本社は、あの頃は草津にあってね。コンデンサーはチタンとか使うので、陶器みたいなものを作るわけやね。だから電気炉ですーっとやらないと。なんしろ高温でやらないとあかんから、止められへんねんね。だから24時間。今でも覚えてる。

1959年3月13日に就職が決まって、3月15日に卒業して、16日から仕事行ってん。で、最初の一週間は普通の昼間の勤務やってん。その次からローテーションで。9時間拘束やから。電気炉いうたら、1300度くらい。それを24時間チェックしなあかんから、部屋の温度は50度、60度やねんね。それで、立ち仕事やねんね。しかも洛陽工業電気科受かって、定時制学校行くようになったら、昼の2時から10時の勤務の時は行けないわけよ。(就職先に)定時制科ってあったのにおかしいし、陶化中学の進路指導の先生に相談に行ったん。この関西二井いうのは大きい会社でね、昔、中学出て朝鮮人として行ったのは僕が初めてなんやって。次の年も、実際とってくれたんやけど。その時、ものすごく悩んでん。学校辞めないと、続けられへんわけ。会社ね。そやけどどうしても、高校は出ておきたかったんで、思いきって会社に言った。ちょうど亀岡に工場を作る時で、朝一番の勤務と夜の勤務、一週間交代やね。で、そこ行き出したら、今でも覚えてるわ。山陰線の単線でね、綾部かどっかで二つに分かれる汽車で、一方が敦賀行き、一方が豊岡行きっていう朝一番の汽車に乗んねん。6時46分発。うわーって走って行って。まだデッキや。そんなん覚えてる。学校終わるのは9時でね。うち帰ってなんやして、夜勤の時は、9時40分の最終があって、そのディーゼル乗って。園部行き乗んねん。でも、さすがにもう勤務もあれやし、学校行っても、勉強にはならんわね。寝るだけ。あんまり疲れて、ものが食べられなくなって、りんごしか食べられなくなって、ガリガリ痩せて。結局、病気になって、学校も行けんようになって。その時、このままやったら死ぬんかなあ、思ってね。なんしろ悔しいてね、自分が。体も動かへんし、痩せて痩せて10キロくらい痩せて、このままいったら、僕ダメなのかなあ思て。その時に、もう一回自分を生き直そう思て、洗

礼受けたんですよ。

洛南幼稚園の卒園後、日曜学校行ってたけど、吹奏楽やらアルバイトやらしだしてから、ほとんど日曜学校行ってなかった。たまにしか。そやけどまあ、自分の生き方の基本のそういうのがあった。まあ、うちがクリスチャンじゃないんだけど、姉が最初洗礼受けて、僕とオモニが別々に行き出したんですけど。そこから考え直して、一生、自分の命を何かにかけてみようと思って、それから我流やけど本格的に音楽の勉強と、働きながら、定時制高校行きながらやから、とっても大変なんですけどね。口ではこんなに簡単に言えるけど、必死でやって。途中で、あんまり仕事が厳しかったんで、京都電測ゆうて長男（兄）が始めたメーターの会社に移って。島津の下請けで、メーターを作る会社なんです。個人企業で勤め始めて。1961年、高校2年生の時に、初めて外登証の切り替えに行った時の話なんですけど、韓国では朴正熙（パクチョンヒ）の軍事クーデターが起こって、私は京都電測に入った時なんですけど、南区役所行ったら、うちのオモニが若い職員に、「字が書けない」って言って、「名前も書けへんのか」って言われていて、オモニは下手くそな日本語で「しゅいません、しゅいません」言うてたん見て、それがすごいショックで逃げて帰って、今でも辛い思い出です。

高校4年の4月で仕事は全部辞めて、アルバイトしながら、学校行きながら、5月から本格的なレッスン受けたんです。その先生が、当時、音楽短期大学の助教授で有名な先生です。うちの亡くなった兄貴も、この先生にずっと習ってたことあって。ところが、初めて受けるもんやから、ちょっと試さはったんかなあ。5月に受けにいった時、聴いてみて、全然や思わはったんか知らんけど、来月のレッスンまでに、バッハのインベンションを1番から15番、全曲を暗譜演奏したら、弟子にとってやると。まあ、1曲を暗譜するのも大変や。それを、初めてレッスン受けて、2回目のレッスンまでに1冊の本を暗譜するのは、僕もいろんな人に教えてるけど、不可能に近い。けど、それをやったんや。うちピアノないから、必死になって、青年の家っていうところあちこち行って、それから学校終わって真っ暗な中で、もう死に物狂いで。ほんで行ったら、ものすごく感激してくれはって。ほんで弟子にとってもらって。で、なんとか大学受かって。あの頃はね、京都市立音楽短期大学って言われてた時代で、2年間、僕らのクラスは40人で、その内2人、



作曲やった。すぐに4年制になる予定だったんが、市議会で、金ばっかりかかって、美術の方は立派な先生いっぱい出てるし、伝統もあるし、人間国宝とか文化勲章受けた人もいっぱいいるけど、音楽は全然だと、どこの党が言ったんか知らんけど、つぶしてしまえということになって、一回つぶれかけてん。僕が2回生の時かな。東京から来てる先生がほとんどで、人ごとのようで、全然協力してくれはらへんかってん。だから、先輩と僕らが署名活動したり、議員さんに陳情したりして。富井市長になった時、富井さんは邦楽やけど音楽やってる人で、尺八の師範でもあんなね。そんな関係で4年制になったんやけど。4年制になるまでの10年間程だけ、専攻科が設けられて、10人残ることができて。専攻科で作曲家出たのは3人だけ。韓国学園で10年間講師をして。その次の年、京都子どもの音楽教室っていう、大学の研究機関で、特別研究員っていう名前やけども、非常勤講師扱いやね。ここでずっと、43年間勤めた。そこも大変やってね。何回も危機が訪れて。

音楽を目指したきっかけは、食べられなくて、バイオリンの音聴いた時、涙が出てきて、そういう世界があるっていうのを初めて知ったのと、2番目の兄貴が特に音楽が好きで。今もNHKの番組であるけど、日曜日に「音楽の泉」っていうのがあって、あらかじめ何が放送されるかいうのを兄貴が知っていて、その準備で図書館から楽譜やら借りて、僕が小学校1年生くらいやったと思うねんけど、それをずっと譜読みさせられて。譜読みをどこで覚えたかは知らんねん。兄貴がやるもんやから。小学校2年3年の時の担任の先生が調子の悪い時、先生の代わりに音楽の先生をやった。あの先生は特に音楽が好きな先生で、僕とかを友だちと一緒に、円山野音ね、音楽会、よう連れていってくれはった。自分で今まで一番音楽やったなあ、と思うのは、インベンション1冊を暗譜演奏したこと。勉強の仕方は、うちの大学の当時の先生が、豊増登っていう日本で有名な超一流の先生やって、豊増登っていう本が最近出てるくらいやから。あの先生が、あさひソノシートっていうペラペラの薄いのあって、インベンションが吹き込んであるシートを出さはって、それを必死に聴きながらやったね。

京都市地域・多文化交流ネットワークサロンでは、東九条で生きて来られた方々の聞き取りを行い、聞き取り報告集として、2013年に『東九条の語り部たち』、2016年に『東九条の語り部たちⅡ』を発行しました。現在、『東九条の語り部たちⅢ』の発行を計画しています。朴実さんの聞き取り全文は、その中でご報告させていただく予定です。



児童館の子供たちに東九条の話をする朴実さん

<登録団体より活動報告>

「つながりの中での安心・自分たちがやっていく事」

大久保 猛（京都ダルク）

僕が東九条の人たちと関わらせてもらうようになったのは、希望の家（京都市地域・多文化交流ネットワークサロン）の宇山さんとの出会いからでした。丁度5年前の話になります。そこからネットワークサロンさんの登録団体になり、東九条春まつり・秋まつり・東九条マダン・高瀬川の掃除など色々と参加させていただき関わりを持たせて頂いています。それに希望の家のイベントの中で色々な人との出会いがありました。保育園の先生や教会の神父さん、居酒屋のお母さん、演劇関係の人、多分まだまだたくさんの人との交流をさせていただいています。僕やダルクの人たちはお祭りの参加や清掃ボランティアなどでいつも声をかけていただき本当に嬉しかったです。なぜ嬉しいかという依存症とか障害者とか言う関わりではなくて、人としての関わりをしてきていたからだと思います。僕が働く京都ダルクは、薬物依存症から回復したいと願う人たちが地域で暮らしながら「薬物を使わない生活」を手に入れ社会に戻り再出発するところです。僕自身も薬物に問題があり、ダルクで再出発して今は京都ダルクのスタッフとして働かせて頂いています。

“回復は一人ではできない” こんな言葉を僕たちは話します。もちろんダルクだけでも“回復はできない” 地域の力が必要です！生きていくのは、人とのつながりがなければ一時的に回復していても孤立してしまい一人ぼっちになってしまいます。薬物に問題がある人は（僕も）こんなことに凄く弱いんだと思います。人として関わりを持ってくれる東九条の人たち、そこで出会う地域の方には本当に助けてもらっています。そんな中、京都ダルクグループホームの建設反対運動が起こりました！「建設反対！」「ダルクには違和感しかない」「この街に来るな！」

この文章を書くかどうか迷いましたが少しでも正直に書ければと思い書いています。この反対運動は数年前から、ダルクのグループホームの建設が決まった時から地域の反対運動がだんだん大きくなり、説明会を開く中で地域の人たちから罵声や建設反対のポスターがあちらこちらに貼られ、僕自身心が折れそうになっていました。その頃か



2019年8月10日京都ダルク、日本自立生活センター、ネットワークサロン共催で行った交流会。約70名が参加し、つながりを確認した。

らイベントや行事に出かけても目の前の人は安全か？

（傷付けられない？）この人は安全ではない？そんな事に囚われだしました。そんな中で春まつりや、そのほかのイベントで出会う人、すべての人にも疑いを持ち始めていきました。本当に今その事を思い出すと段々と心が閉ざされてきていたんだと思います。あるイベントの実行委員会の中でダルクの共同



京都ダルクの新しい（グループホーム）
2020年8月完成

施設長である出原と僕がこの事を話させていただきました。実は京都ダルクのグループホームの建設反対運動がありとても困っていますと話させていただきました。あの時、実行委員会の中で色々な人から温かい応援や、僕たちの事なのに涙ぐんで話してくれた事、その日の帰りの車の中で出原と泣きそうになりながらももう一度人とのつながりを感じさせていただきました。後々気づいたのですが、自分たちの事ばかりで振り回されていて何も知らなかったのですが、僕の周りで応援してくれている人のほとんどの方はこういった出来事の中でさらに人とのつながりを強め立ち上がろうとしてきた人たちなんだと。その事を僕自身が知った時から僕が本当の意味でやらないといけない事はやはりつながりを求めていく事なのかなと。被害者意識が凄くあった僕が、人とのつながりの中で凄く大きく成長させてもらったんだと思います。人との出会いの中で“好き”なことがあります。それは人と人が出会った時の、はにかんだ顔や笑顔です（ダルクの人たちも良くそんな顔していますよ）僕はその時に凄く幸せを感じられているんだと思います。

「つながり」から生まれる交流、交流から生まれる「つながり」

宇山 世理子（京都市地域・多文化交流ネットワークサロン）

交流から生まれる「つながり」を大切にしてきたネットワークサロンにとって、東九条春まつりをはじめ、さまざまなイベントがなくなることは、とても残念なことでした。緊



急事態宣言の間、いつもは誰彼なく訪れてにぎやかなセンターも、がらんとしている日々でした。6月から始めた公園そうじのきっかけをくれたのは、京都ダルクの大久保さんでした。

「高瀬川そうじ、しませんか？」と。気軽に参加してほしいこともあり、公園そうじを月1回することになりました。現

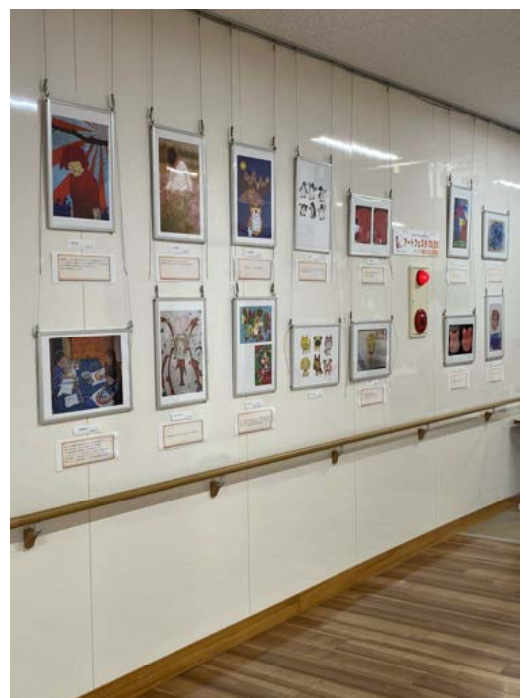
在、毎月第2火曜日、朝10時～11時（雨天中止）で、ネットワークセンター近隣の公園そうじを行っています。レギュラー参加は、京都ダルクとネットワークサロン通信第33号でご紹介したゴミコロレンジャー（NPO法人スウィング）。登録団体にも呼びかけているので、数名参加してくれています。9月は、可愛い保育園児さんもお手伝いしてくれました。



ダルクが草刈り機を持参し、公園の草をガーッと刈ることもあれば、地道に手作業することもあります。どちらにしても、終わった後は、達成感と交流できたうれしさでとても気分が上がります。8月は暑さですすがに限界でしたが…。始めたばかりの取り組みですが、すでに新たなつながりも生まれ始めています。月1回、ほんの少しの時間ですが、公園掃除で交流しませんか？

「アートフェスタ2020」

ワークス共同作業所は、毎年、ネットワークサロンを会場に、「アートフェスタ」を開催されています。今年は、コロナの影響で、同時開催の東九条夏まつりも中止になり、感染拡大防止のため、部屋を使っただけの作品展示もできませんでした。作品の写真を募集し、Web上で展示されましたが、やはり、より多くの方に見ていただきたいということで、ネットワークサロンのとても風通しのよい廊下で、プリントアウトした写真を展示することになり、8月20日から約3週間、展示されました。今年のテーマは「あなたに感謝」。見ているだけでほっこりする作品が多かったことにも癒されたのですが、いろいろなことがストップしている時期に、作品を通してつながりが感じられるとても素敵な展示でした。



東九条マダン' 20<つなげよう、貯えよう、発信しよう>

今年は、東九条内外のあらゆるイベントが中止なったり、形を変えて行われています。東九条マダンもそのひとつ。今年は「WEBマダン」「ぬり絵でつながるマダン」「展示マダン」の3本立てで開催されることになりました。そして、「展示マダン」の会場は、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンになりました。例年の東九条マダン会場で行われている展示が、そのままネットワークサロンにやってきます。みなさん、おたのしみに!! 展示期間：11月4日



ネットワークサロン
Facebook

(水)～22日(日)開催時間は曜日によって異なりますので、ネットワークサロンまでお問い合わせください。また、Facebookでも詳細をご案内します。※展示は風とおしのよい場所ですが、マスクの着用、手指消毒のご協力をお願いいたします。

第41回京都福祉まつり

昨年より、ネットワークサロンも実行委員に参加している「京都福祉まつり」は、Web開催の準備がすすめられています。「障害者自身の力で福祉まつりの企画をたて、周囲からの協力を得ながら作り上げていくことによって、共生社会の実現に一步ずつ近づけていくことを目指す」といった主旨を掲げながら、Web上であっても福祉まつりらしいものを作りだそうと、時間をかけて丁寧に話われています。開催は3月14日(日)の予定です。詳細は、ネットワークサロンのFacebookにて。



編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

□所在地：601-8006 京都市南区東九条東岩本町31 □tel：075-671-0108

□fax：075-691-7471 □開館時間：9時～17時 □E-mail：info@kyotonetworksalon.jp

□webサイト：http://www.kyotonetworksalon.jp

□JR京都駅八条口・JR京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分

□京都市バス202・207・208系統 九条河原町より徒歩10分 16・84系統 河原町東寺道より徒歩1分